資料　３
第１回 よこすか地域
支え合い協議会
令和３年７月 30 日

前回会議における各チームでの協議内容と関係部署への聞き取り結果

令和２年度の会議では各チームに分かれて協議をしていただきました。

その際に出された複数の意見について、会議後、事務局で関係部署に聞き取りを行いましたのでご報告いたします。

１ Ａグループ

協議テーマ：居場所づくりと地域デビュー

前回会議で出された意見
（１）居場所について ① 空き家の利用 ・誰でも気軽に立ち寄れる場所として空き家があれば活用できないか。 ② ボランティアセンターの活用 ・ボランティアセンターが地域の拠点となるよう、新たな活動を地域と検討中である。 ③ 学校施設の利用 ・地域コミュニティ支援課で、スクールコミュニティも市内で開始した。 ・学校と地域の連携になる。 （２）人材について ・地域には、多様な知識や技術を持つ人がいるため、得意な分野を活かし、地域に提供してもらいたい。 ・地域の顔となる人が関わると人が集まるのでは。良いことは口コミで広がる。
事務局より
１ 「空き家の利活用促進とコミュニティの再生に向けた取組（まちなみ景観課)」 （１）空き家等の活用促進に関する取り組み ① 空き家等に関する相談対応 空き家所有者・管理者からの相談窓口をまちなみ景観課に設置するとともに、不動産事業者をはじめとする関連団体と連携し年３回の相談会を実施し、空き家等の利活用に関するアドバイスを通じて住宅流通や除却を促進。 ② 空き家バンクの運営 市場で流通しにくい物件について、買い手や賃借人とのマッチングを行うことで、空き家（中古住宅）の流通を促進する。 ③ その他（空き家等の適正管理に関する取り組み） 適切な管理がなされていない空き家等の所有者等に対し情報提供等を

行い、適切な管理に向けた働きかけや助言・指導を行う。また、一定の条件を満たす安全性の無い家屋の解体費用の一部を補助することで除却誘導し、跡地の利活用を促進。

（２）谷戸地域のコミュニティ再生及び活性化のための支援

谷戸地域の空き家等を対象として、以下の取り組みを行っている。

① アーティスト村創出事業

田浦泉町にある市営温泉谷戸住宅跡地を活用し、地域交流に意欲的なアーティストを誘致し、ワークショップ等の芸術を通じた地域の活性化を図る。

② 谷戸の地域交流拠点を創出する取り組みの募集と助成

谷戸地域にある、ご自身で借り受けた、若しくは、取得した空き家を活用した地域交流拠点を創出する企画の取り組みに対して必要費用の４分の３、上限 100 万円を助成する。（選考の上、１件）

③ 学生居住支援事業

谷戸地域にある空き家（市が指定する物件）にルームシェアする学生に対し、地域貢献を行うことを条件に家賃の一部を助成する。

④ 「守谷ノ間」地域交流拠点

鷹取町の谷戸にある空き家を改修し、そこを関東学院大学の学生が「守谷ノ間」という愛称の地域交流拠点として運営し、学生が地元住民を招待しイベント等を定期的に行っている。また、普段は地元の人たちの交流の場として活用する。

２ 「空き家や空き店舗を活用した地域の取り組み」

所有者と活動者が実際に結びついている活動事例があることが分かった。

① 助け合いハイランド１丁目（空地になっているスペースを利用）

② 岩戸５丁目ふれあいの輪（空き家を利用）

③ サンカフェ広場（空き店舗を利用）

３ 「スクールコミュニティの取り組み（地域コミュニティ支援課）」

地域の方にとって愛着のある小学校を中心に子どもから高齢者までさまざまな世代の交流を促進し、地域コミュニティ活動の活性化を目指している。

２ Ｂグループ

協議テーマ：町内エリアでの理解を広げる

前回会議で出された意見
（１）町内会と民生委員 ・災害への意識が高まることは、結果として支え合いにつながる。 ・町内会の役員会に民生委員が含まれていないこともある。また支え合いに関することは地区社会福祉協議会と整理している町内もある。町内会の温度差はあることは事実。 ・地域に支援を必要としている人、支援策について一体的に話せる場が必要では。まずは、関係者が繋がる必要を感じる。 （２）地域と介護事業所 ・事業所が考える地域課題を提供してもらい、一緒に考える機会を作れないか。既存の協力から、新たな協力の形ができると良い。 ・お祭りへの協力など施設と町内の交流が広がれば相互に良い。住民の支え合いの意識啓発にもなる。 ・地域密着型と認知症対応型のデイサービス場合には、地域の人に役員になってもらい運営推進会議を設置する義務がある。地域の意見を伝えられる場でもある。
事務局より
「災害時要援護者名簿について（危機管理課・健康長寿課)」 災害時、地域による要援護者への支援が迅速かつ的確に行われるよう、災害時要援護者プランを策定しており、市民からの申請を基に名簿を作成している。 民生委員児童委員には、担当地区内の該当者名簿、町内会長・自治会長には、町内会・自治会内の該当者名簿をそれぞれ配布している。なお、申請時に、「町内会・自治会（自主防災組織)、民生委員児童委員、横須賀市社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会への個人情報の提供の同意を得ている。

３ Ｃグループ

協議テーマ：新しいこと

前回会議で出された意見

（１）移動および買い物支援

・移動支援の取り組みを進める上で重要な点は、町内エリアの理解、行政の後押し、民間企業の協力が不可欠である。

・買い物支援については、地域の特性に応じて複数の課題や解決方法があるのではないか。

・施設の送迎車両を使用していない時間帯を活用して、試行的に買い物支援の取り組みを行っている。町内会から 2,000 円の負担金をいただき、月に 1 度、町内会を回っている。

・重要な点は、物が手に入ればよいわけではなく、高齢者の生きがいをどう守るかという点である。商品を見る楽しさ等、暮らしの中での生きがいや楽しさをどうしたら実現できるかという支援が重要である。

（２）その他

・通いの場について、お寺や神社、教会の活用はどうか。ある地域では、ジャズなどの催し物を開催しているところがある。

事務局より

1　買い物支援について

（１）移動スーパーについて

①　田浦、大津、久里浜の一部地域では、移動スーパー「とくし丸」が日用品や食材等を販売している。

②　津久井浜と鴨居の県営団地では、移動スーパーの「BLUE キャップ」が走っている。

・①、②ともに高齢者にとって互いの見守りや楽しみにつながっていることが取材で分かった。

2　その他の居場所やコミュニティづくりについて

（１）青年会議所との連携について

横須賀青年会議所内の「地域コミュニティ再興委員会」では、地域コミュニティの大切さと、繋がりを構築する取り組みを進めている。方向性について合致する点が多いことが分かった。新型コロナ感染症の終息後に検討を進めることで、考え方の共有は図ることができた。

（２）アプリを活用したつながりづくりについて

次のアプリについて活用促進の支援を行っている。

①　地域 SNS アプリ「ピアッザ」（地域コミュニティ支援課）

身近なイベントや不用品等、情報を発信し合うアプリで、地域密着型のコミュニケーションをデジタル上で促進することが期待できる。

※住民同士だけでなく、飲食店や各種団体からも発信が可能

② 三日坊主防止アプリ「みんちゃれ」（健康長寿課）

匿名５人１組でチームを組み、健康、学習、趣味などの習慣化を目指すアプリで高齢者のフレイル予防が期待できる。